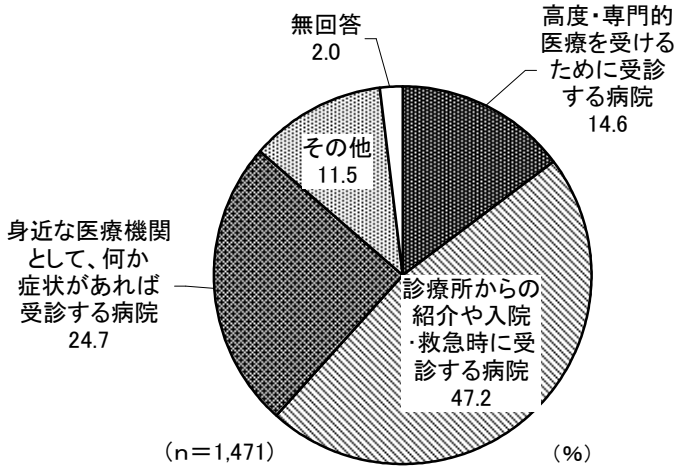
12　保健・健康

（1）市立病院のイメージ（A：問21）

問. 平成27年3月に新市立病院（第1期）がオープンしました。市立病院に対するあなたがお持ちのイメージについて、近いものを選んでください。（1つだけ選んでください）

図12－1－1　市立病院のイメージ



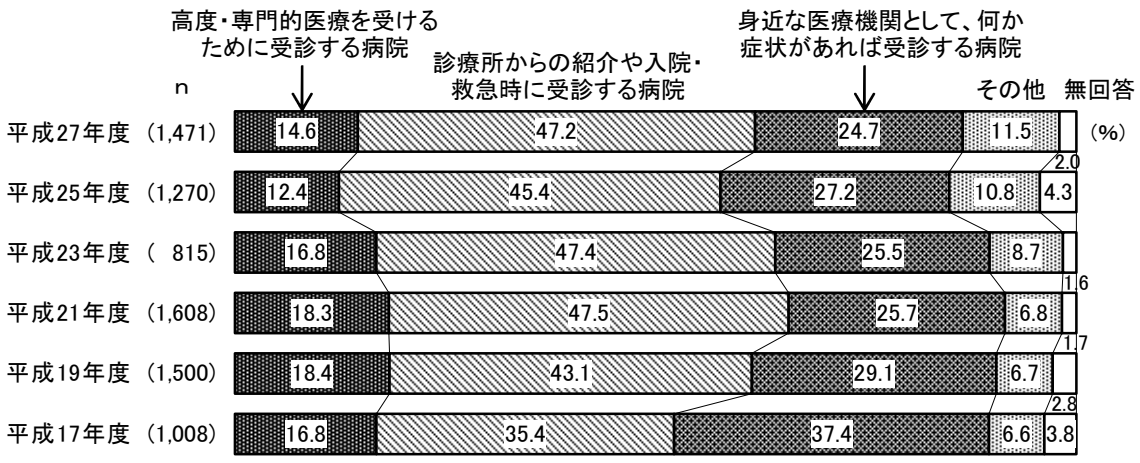
【全体】

市立病院のイメージについて聴いたところ、「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（47.2%）が5割近くで最も高く、次いで「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（24.7%）、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（14.6%）となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図12－1－2　市立病院のイメージ－経年変化

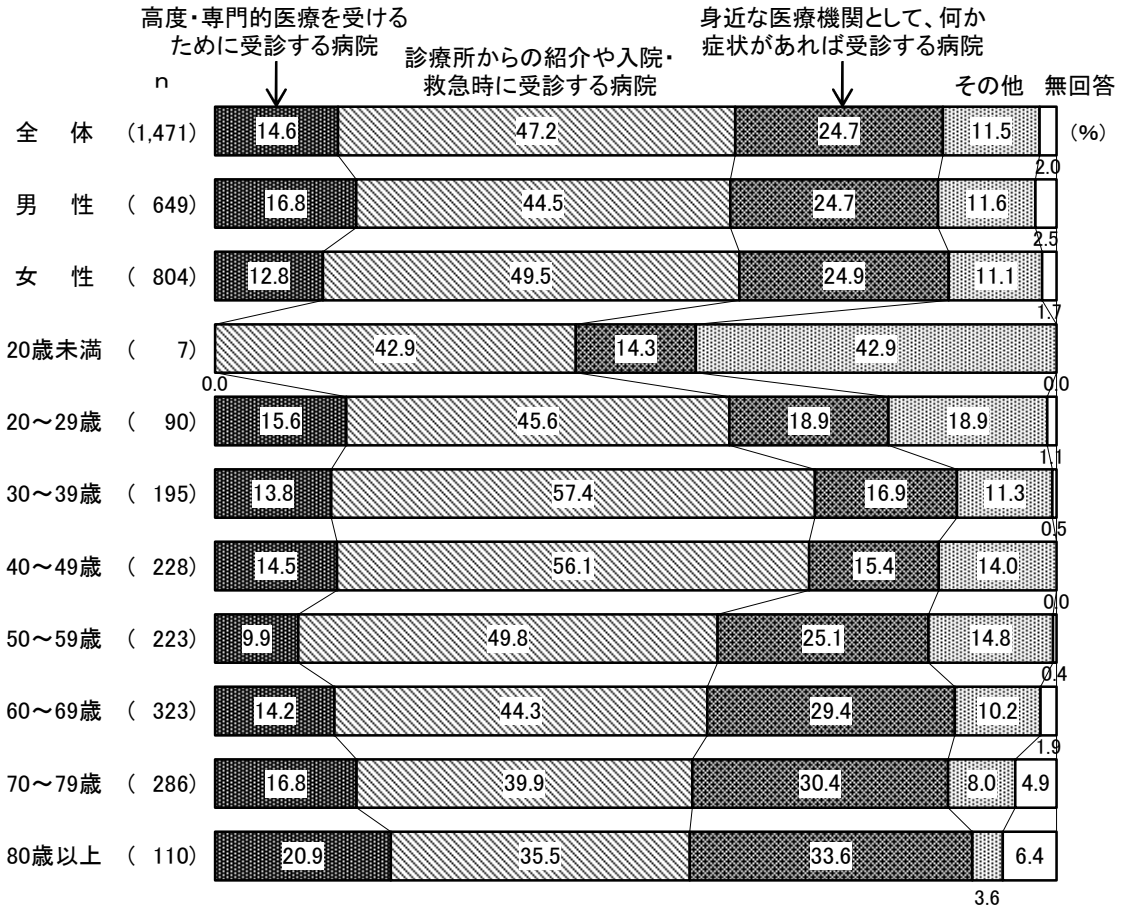


【属性別】

性別で見ると、女性では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」（49.5%）が男性（44.5%）より5.0ポイント高くなっている。一方、男性では「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（16.8%）が女性（12.8%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30歳から49歳では「診療所からの紹介や入院・救急時に受診する病院」が6割近くと高くなっている。80歳以上では「身近な医療機関として、何か症状があれば受診する病院」（33.6%）が3割を超えて高く、「高度・専門的医療を受けるために受診する病院」（20.9%）が約2割と高くなっている。

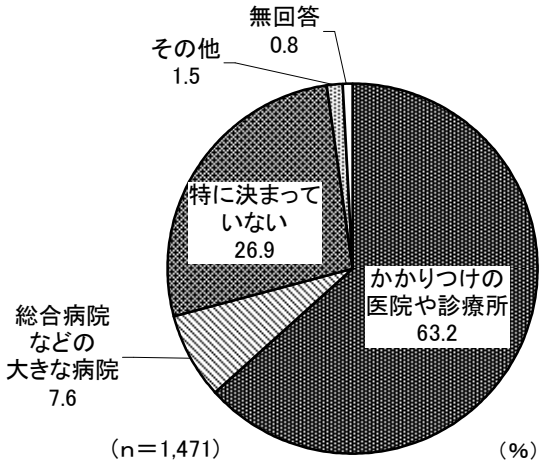
図12－1－3　市立病院のイメージー性別、年齢別



（2）かかりつけ医（A：問22）

問．かかりつけ医は、日ごろから医療や健康相談等を受け持ち、病院は入院の必要な患者を受け持つという役割分担がありますが、あなたは風邪などにかかったとき、通院する医療機関は決まっていますか。（１つだけ選んでください）

図12－2－1　かかりつけ医



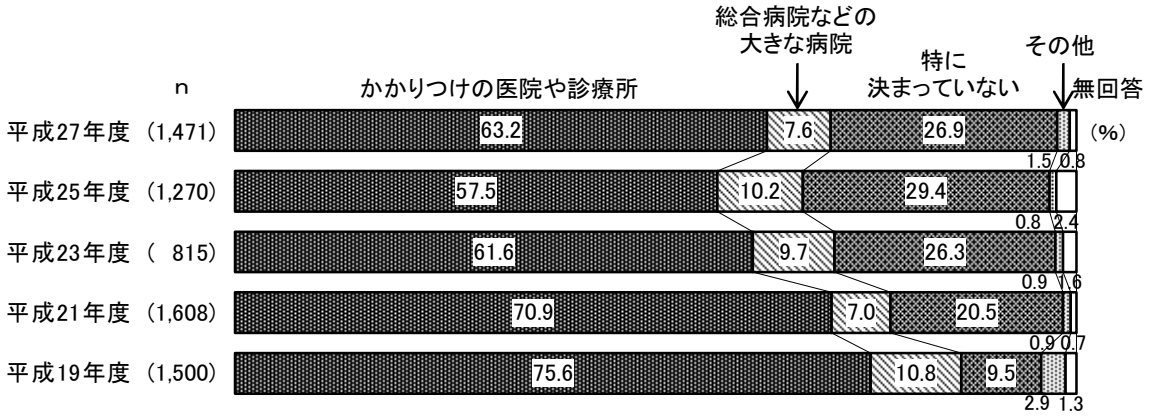
【全体】

風邪などにかかったとき、通院する医療機関を聴いたところ、「かかりつけの医院や診療所」（63.2%）が６割を超え、「総合病院などの大きな病院」（7.6%）は１割未満となっている。一方、「特に決まっていない」（26.9%）は３割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「かかりつけの医院や診療所」（63.2%）は前回調査（57.5%）より5.7ポイント増加している。

図12－2－2　かかりつけ医ー経年変化

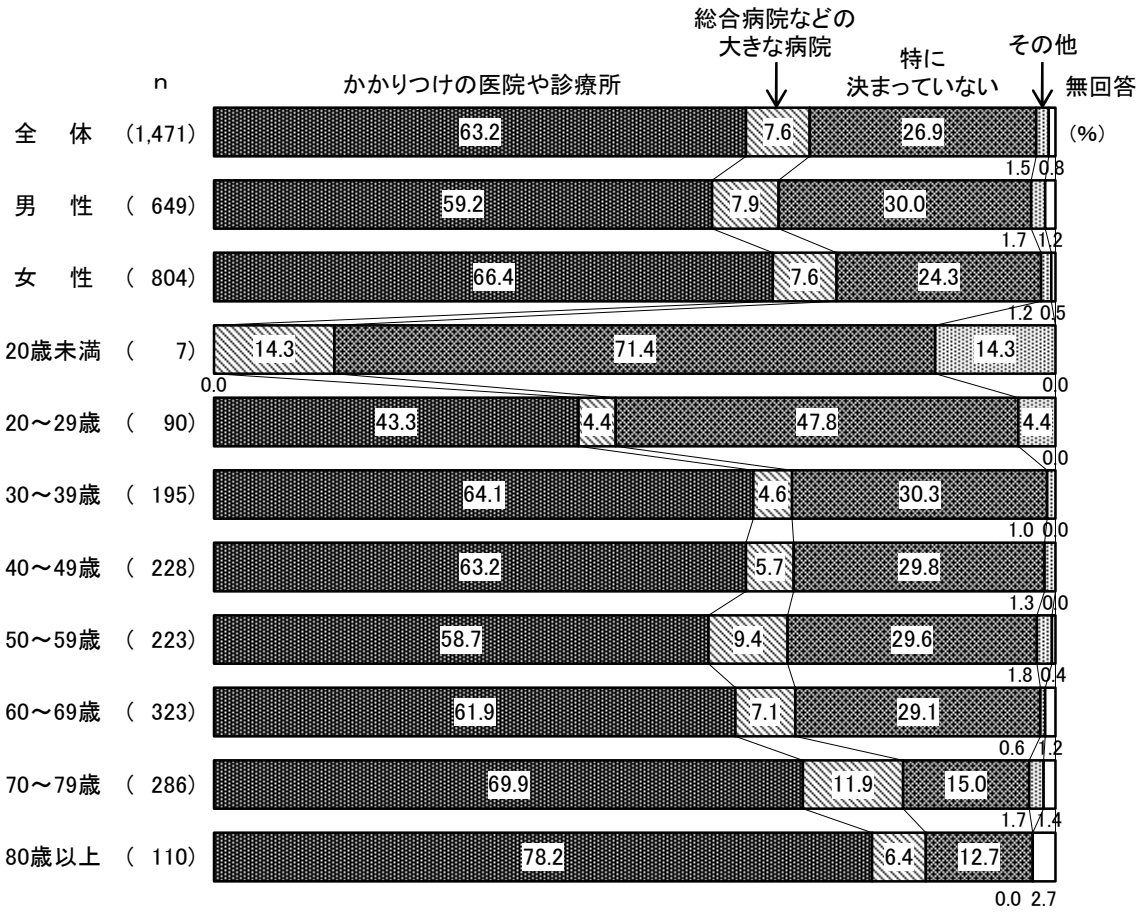


【属性別】

性別で見ると、女性では「かかりつけの医院や診療所」（66.4%）が男性（59.2%）より7.2ポイント高くなっている。一方、男性では「特に決まっていない」（30.0%）が女性（24.3%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、80歳以上では「かかりつけの医院や診療所」（78.2%）が８割近くと高くなっている。20～29歳では「特に決まっていない」（47.8%）が５割近くと高くなっている。

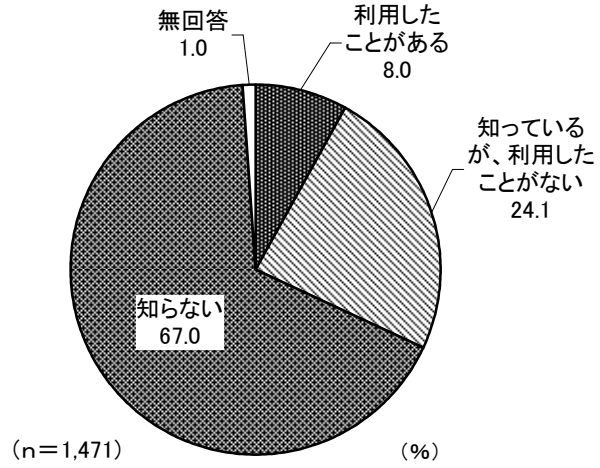
図12－２－３　かかりつけ医ー性別、年齢別



（3）「あつぎ健康相談ダイヤル24」（A：問23）

問．24時間フリーダイヤルで医師やカウンセラーが健康相談や医療機関情報についてお答えする「あつぎ健康相談ダイヤル24」を知っていますか。（１つだけ選んでください）

図12－3－1　「あつぎ健康相談ダイヤル24」



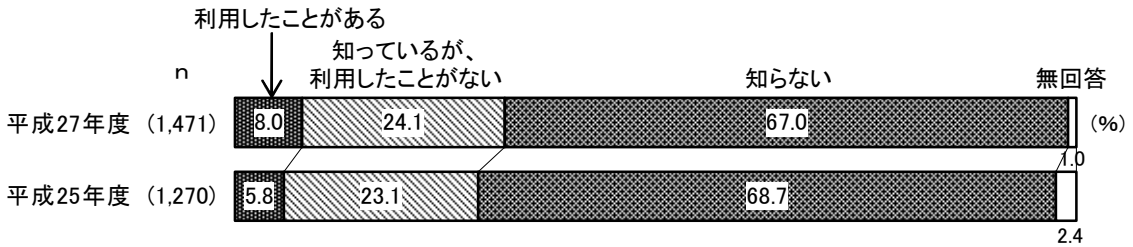
【全体】

「あつぎ健康相談ダイヤル24」について聴いたところ、「利用したことがある」（8.0%）と「知っているが、利用したことがない」（24.1%）を合わせた『知っている』（32.1%）は3割を超えている。一方、「知らない」（67.0%）は7割近くとなっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、『知っている』（32.1%）は前回調査（28.9%）より3.2ポイント増加している。

図12－3－2　「あつぎ健康相談ダイヤル24」ー経年変化

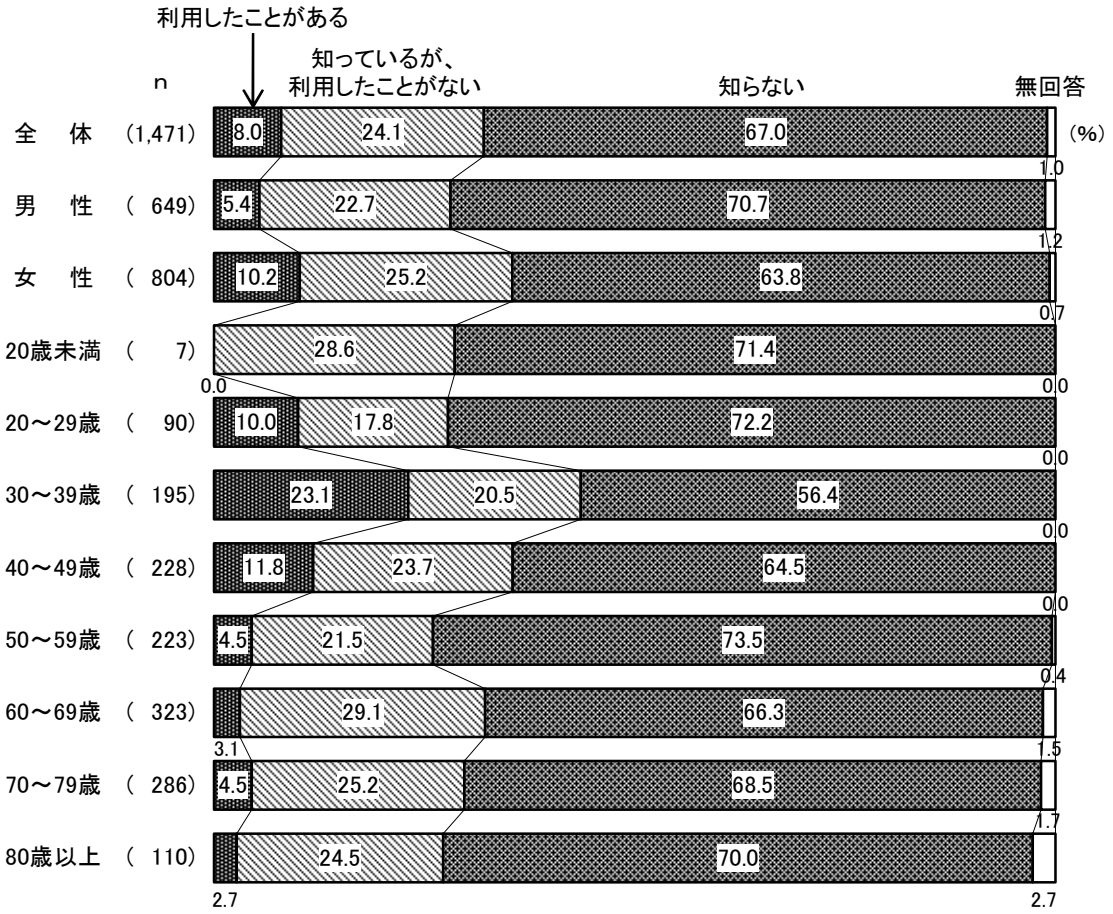


【属性別】

性別で見ると、女性では『知っている』（35.4%）が男性（28.1%）より7.3ポイント、「利用したことがある」（10.2%）が男性（5.4%）より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「知らない」（70.7%）が女性（63.8%）より6.9ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、30～39歳では『知っている』（43.6%）が４割を超え、「利用したことがある」（23.1%）も２割を超えて高くなっている。20～29歳と50～59歳では「知らない」（72.2%・73.5%）が７割を超えて高くなっている。

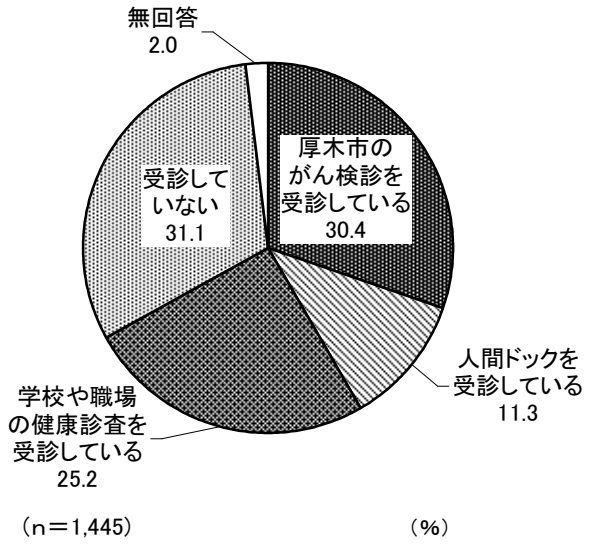
図12－３－３　「あつぎ健康相談ダイヤル24」－性別、年齢別



（４）がん検診の受診状況（Ｂ：問18）

問．がんは、日本人の死因の第一位となる病気です。あなたはがん検診を受診していますか。
（主なものを１つだけ選んでください）

図12－４－１　がん検診の受診状況



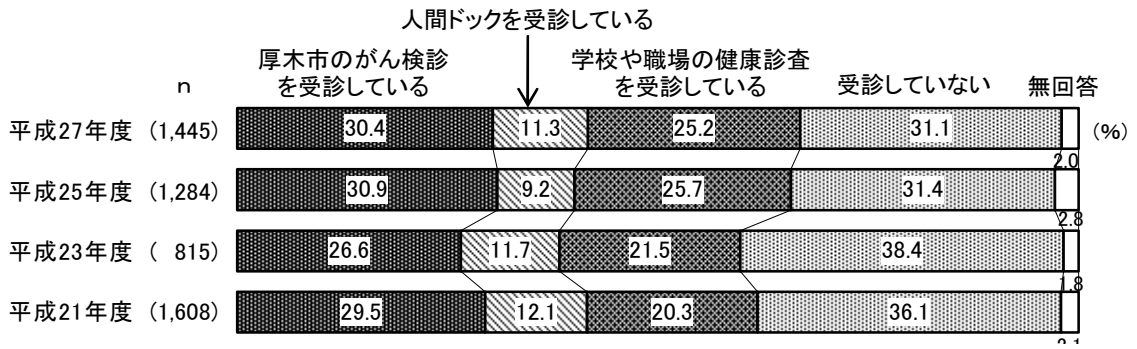
【全体】

がん検診の受診状況について聴いたところ、「厚木市のがん検診を受診している」（30.4%）が約３割、「学校や職場の健康診査を受診している」（25.2%）が２割半ば、「人間ドックを受診している」（11.3%）が１割を超えており、この３つを合わせた『受診している』（66.9%）は７割近くとなっている。一方、「受診していない」（31.1%）は３割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、前回調査と比べて大きな差異はみられない。

図12－４－２　がん検診の受診状況ー経年変化

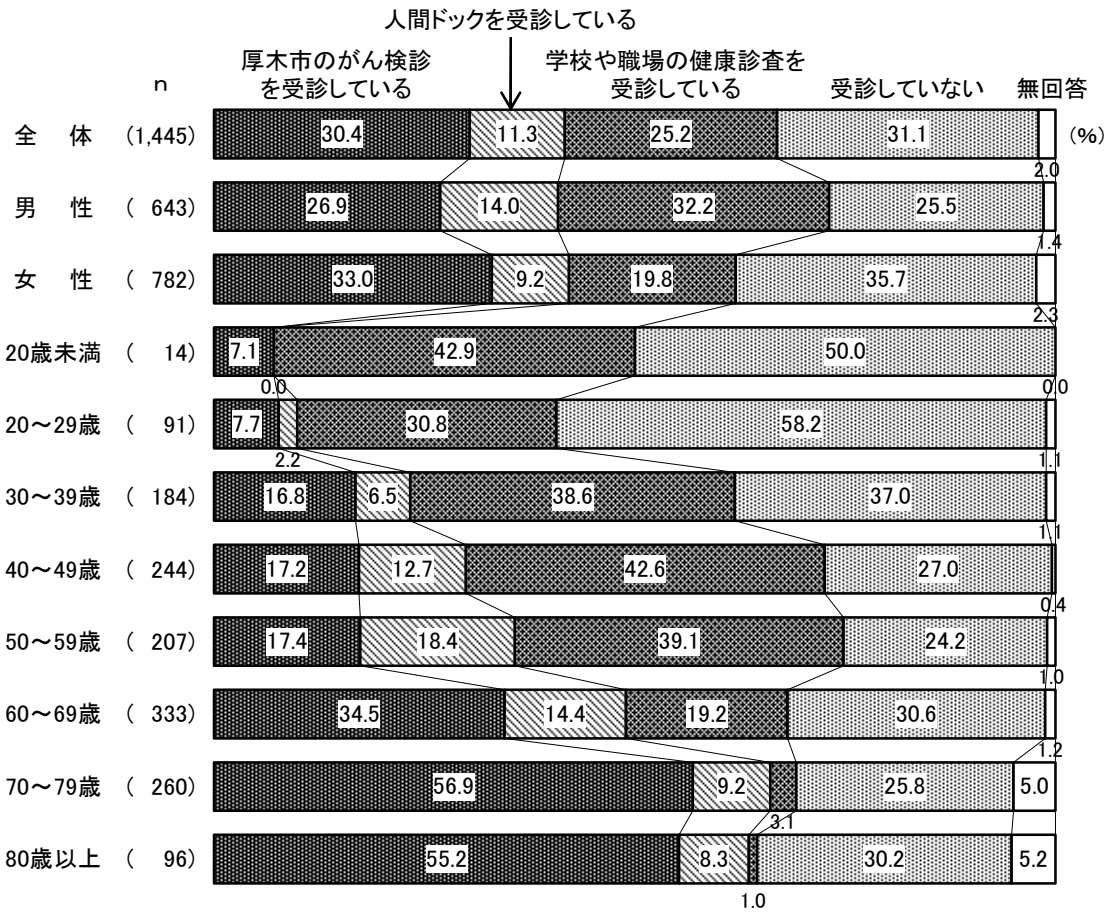


【属性別】

性別で見ると、女性では「受診していない」（35.7%）が男性（25.5%）より10.2ポイント、「厚木市のがん検診を受診している」（33.0%）が男性（26.9%）より6.1ポイント高くなっている。一方、男性では「学校や職場の健康診査を受診している」（32.2%）が女性（19.8%）より12.4ポイント、「人間ドックを受診している」（14.0%）が女性（9.2%）より4.8ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「厚木市のがん検診を受診している」は70～79歳（56.9%）で6割近く、80歳以上（55.2%）で5割半ばと高くなっている。40～49歳では「学校や職場の健康診査を受診している」（42.6%）が4割を超えて高くなっている。50～59歳では「人間ドックを受診している」（18.4%）が2割近くと高くなっている。20～29歳では「受診していない」（58.2%）が6割近くと高くなっている。

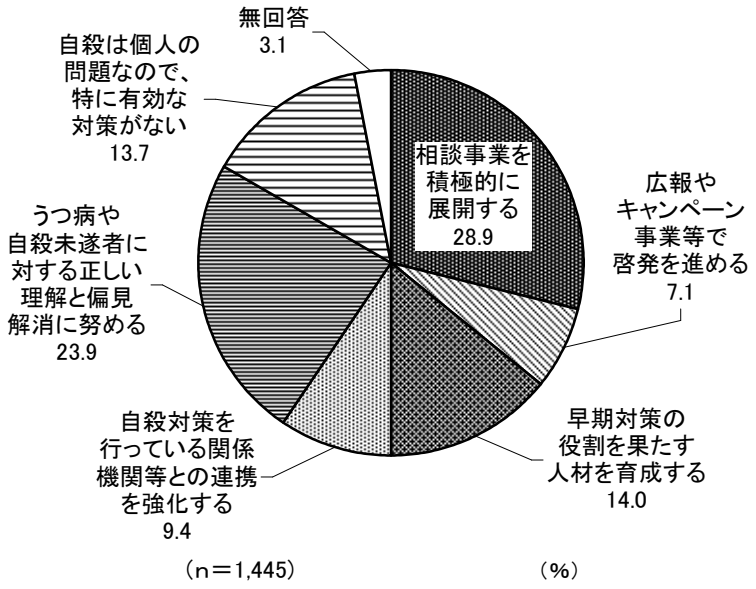
図12－4－3　がん検診の受診状況ー性別、年齢別



（5）自殺への対策（B：問19）

問．自殺で亡くなる方は全国で年間2万5千人を超え、厚木市でも少なくありません。
このことに対して、どのような対策が重要だと思いますか。（１つだけ選んでください）

図12－5－1　自殺への対策



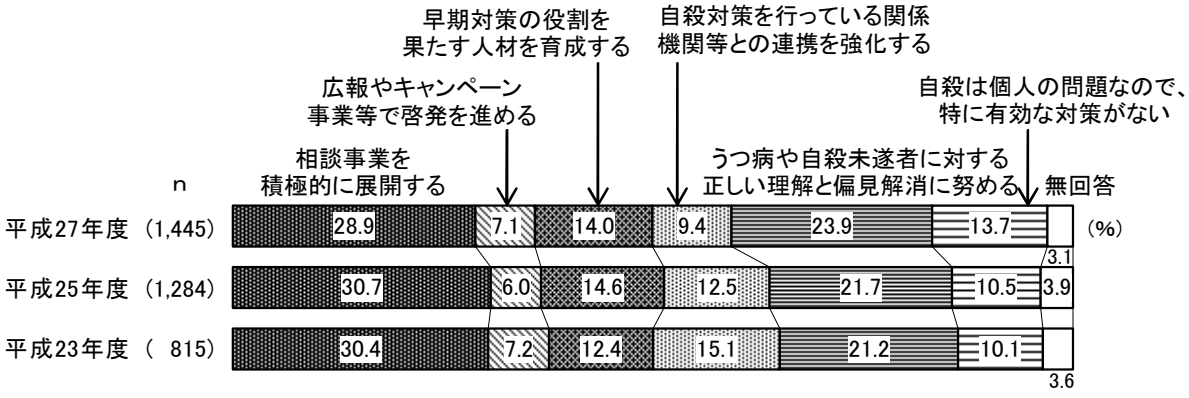
【全体】

自殺への対策について聴いたところ、「相談事業を積極的に展開する」（28.9%）が３割近くで最も高く、次いで「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（23.9%）、「早期対策の役割を果たす人材を育成する」（14.0%）、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（9.4%）となっている。一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」（13.7%）は１割を超えている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、「自殺対策を行っている関係機関等との連携を強化する」（9.4%）は前回調査（12.5%）より3.1ポイント減少している。一方、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」（13.7%）は前回調査（10.5%）より3.2ポイント増加している。

図12－5－2　自殺への対策－経年変化



【属性別】

性別で見ると、女性では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（26.1%）が男性（21.3%）より4.8ポイント高くなっている。一方、男性では「広報やキャンペーン事業等で啓発を進める」（9.3%）が女性（5.2%）より4.1ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、50～59歳では「相談事業を積極的に展開する」（36.7%）が４割近くと高くなっている。20～29歳では「うつ病や自殺未遂者に対する正しい理解と偏見解消に努める」（33.0%）が３割を超えて高く、「自殺は個人の問題なので、特に有効な対策がない」（22.0%）が２割を超えて高くなっている。

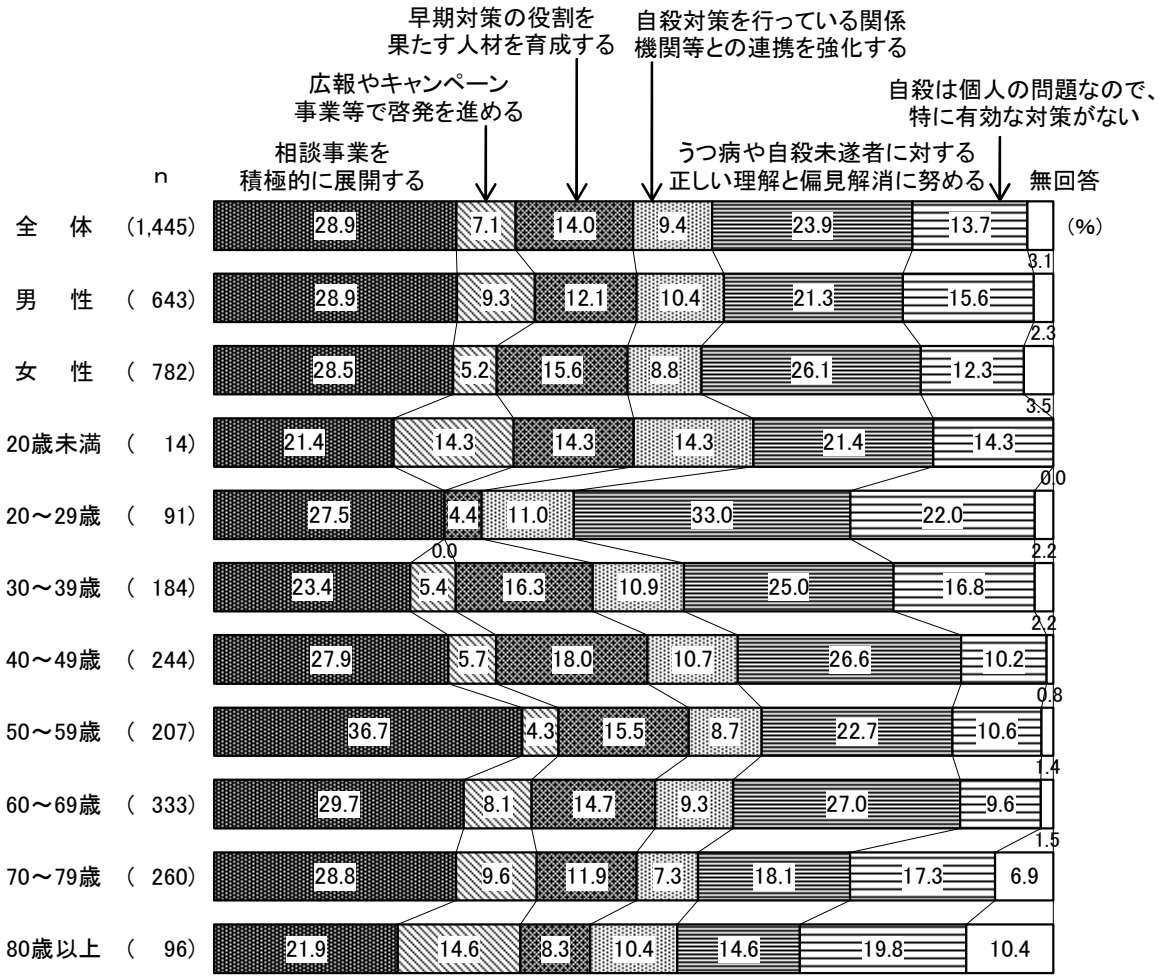



図12－５－３　自殺への対策ー経年変化